令和６年度　　天津わかしお学校　学校・寄宿舎経営方針

めざす学校像

**心地よいリズム、一人ひとりのメロディ、**
**人と人とのハーモニー**

# みんなで奏でる天津わかしお学校

板橋区立天津わかしお学校
校長　山中　佳子

１　はじめに

私は校長・副校長になる前の２８年間を小学校で音楽専科として子供たちと歌ったり演奏したり、時にはステージで発表したりして楽しく勤めてきました。子供たちと一緒に音楽をつくることが私の大きな喜びでした。そして、いつしか「学校も音楽そのものだ。」と考えるようになり、「学校という音楽を、学校に関わるみんなで一緒につくってみたい」という大きな夢をもって校長になりました。

天津わかしお学校を一つの音楽にたとえるなら、子どもや教職員、保護者は演奏者です。互いの思いや願いを込めて、聴き合い、合わせながらオーケストラのように一つの音楽を創り上げていきます。

音楽にはなくてはならない３つの要素「リズム」「メロディ」「ハーモニー」があり、どれか一つが欠けてしまっては音楽として成りたちません。学校にも全く同じことがいえると考えています。

「リズム」　音楽に躍動感をあたえるリズム。生活の中にも心地よいリズムがあります。やる気に満ちて調子のよい時はリズムに乗っている時です。

「メロディ」音楽の主役であるメロディ。学校では、主役である子ども一人ひとりがメロディーです。１０人いれば１０のメロディがあり、それぞれに個性があって「なりたい自分」（目標）をもっています。メロディは一人ひとりちがっていて、どれも尊重され、輝いています。

「ハーモニー」複数の音が重なり合う響きをハーモニーといいます。一つひとつの音を重ねて生まれるハーモニーはいろいろな響きが生み出されます。音と音がぶつかり合う緊張した響き（不協和音）、それが解決され、調和のとれた平和な響き（協和音）・・・まるで、泣いたり笑ったりしながら、子どもも大人もみんなで学びあい、支えあう学校そのものです。

「リズム」「メロディ」「ハーモニー」が一体となり、人に感動を与える音楽はそう易々と生まれるものではありません。演奏者が苦楽を共にしながら焦らず、急がず、信頼し合い、試行錯誤を繰り返し、くじけず、あきらめず、心を込めて創り上げるものです。学校もまた然り。私は、天津わかしお学校という音楽が人の心に伝わるために、

・一人ひとりの自己実現へ向け、健康な体づくりを主軸とし、豊かな心の育成と学力の向上に取り組みたい。
・笑いあり、涙ありの人間味あふれる校風を大切にしたい。
・大いに間違え、失敗して、そこからみんなで学び、伸びやかに成長していく学校でありたい。
・ここでしかできない寄宿舎生活や自然体験、少人数のよさを生かしたい。
・全教職員のチームワークで、一人ひとりを理解し、愛を込めた教育活動でありたい。
・子どもと教職員、保護者が大きな家族のような学校でありたい。（子どもの成長を喜びあい、全ての大人で全ての子どもを育てる。）
・第二のふるさとである天津の地域の方々から愛される学校でありたい。

これらの実現をめざします。

子どもたちにとって、ここで得たことが、「自分の道を逞しく切り拓いていく」ための「生きる力」となり一人ひとりの未来につながるよう、全力で努めてまいります。

そのためには、私たち教職員一人ひとりが児童にとって人生の先輩として、あこがれの存在となり、私たち一人ひとりが、元気で、輝く存在であることが必要です。学校教育目標の実現に向けて、全教職員が使命感と責任感、そして学校経営参画意識をもち「自分ごと」として組織的・計画的に職務を遂行することが必要です。「天津わかしお学校を支えるのは、自分だ」という気持ちで、みんなでやっていきましょう。

私の願いは、「天津わかしお学校に来てよかった、通わせてよかった、ブラボー！」と拍手で讃えあえるような学校にすることです。

教職員の３つの「わ」

使命を「わ」すれない　　みんなで「わ」になる　　「わ」らいがこぼれる仲間

２　学校教育目標

**「健康な子　　体力、学力、自信をつける」**

学校及び寄宿舎における集団生活を通じて、人権尊重の精神を基本とした知・徳・体の調和を図り、自ら考え、判断し、主体的に行動できる人間性豊かで健康な心と体の児童の育成をめざす。

社会性と社会力を高め、児童が地域に戻った際に自信をもち安心して生活や学習できるようにする。

３　めざす学校像

**心地よいリズム、一人ひとりのメロディ、人と人とのハーモニー**

**みんなで奏でる天津わかしお学校**

４　めざす児童像・教師像

目標をもち「なりたい自分」をめざして「か・つ・や・く」する児童・教師

か･･･かんがえる　つ･･･つよくなる　や･･･やさしくなる　く･･･くじけない

◇かんがえる

・「授業の時間だけでなく、いろいろな時間に」、「教室だけでなく、寄宿舎でも」、頭を動かし、考えよう。

・覚えることだけでなく、自分で考え、意見をもち、それを人に伝えよう。

・相手の気持ちに気付こう。

◇つよくなる

・体を動かし、つよい体を作ろう。

・自分の弱い心に負けない、つよい心を作ろう。

・きまりを守り、いいことと悪いことの判断をして行動しよう。

◇やさしくなる

・まわりには、大切な友達がいます。どの友達にもやさしくなろう。

・心を動かし、どうすれば相手がよろこぶか、相手の気持ちを想像し、よろこぶと思うことをやってみよう。

・自分がやさしくされたら、相手の心を感じて「ありがとう」のお礼を言おう。ほかにも、いろいろな場面であいさつを大切にしよう

◇くじけない

・生活や勉強の中で、うまくいかなかったことや失敗してしまうこともあっても、くじけない。

・うまくいくようにやり方を工夫してみよう。

・あきらめずに何度でもチャレンジしよう。

５　本年度の最重点教育活動　☆健康改善を、すべてに生きて働く原動力として以下につなげる。

**◇社会力を向上させ、自信をもたせる。**

・自己理解を深めるとともに他者意識を高める。多様な人々を肯定的に受け入れる。

・話し合い活動を通して、自分たちで問題を解決し、目標を達成する喜びを味わう。

**◇学力を向上させ、自信をもたせる。**

「一人ひとりの児童の確実な伸びを保証する。」

・基礎的基本的な知識技能の習得をさせる。
・学びに向かう姿勢を高める。

6－1 学校・寄宿舎経営の基本方針

「学舎連携」（心地よい緊張感のある学校と癒しや楽しさのある寄宿舎の相乗効果を図る。）

◇心の育成に関すること（徳）

①児童理解を深め、一人一人を大切にした温かい指導

・家族と離れて生活する児童の心情を理解し、心理的な安定を保てるように学校、寄宿舎、家庭との連携を密にする。児童が、楽しく、安心して過ごせる環境を作る。
・学習指導や自立活動、食事、休み時間、放課後、１キロ走、自由時間など、児童と共に生活する中で児童理解を深める。体罰や言葉の暴力を学校と寄宿舎（教員、指導員、児童）から排除し、心の通い合う言葉を通した指導や関わりを行う。
・学習活動の振り返りやキャリアパスポート、寮での終礼など、振り返りを有効的に活用する。児童に満足感や達成感を味わわせ、自己肯定感や自己有用感を高めさせるとともに、教員や指導員が認め、励ましていく中で児童に自分の成長やよいところ、課題、個性に気付かせ、自らがよりよく成長していこうとする意欲を養う。

②気持ちのよいあいさつと返事、言葉遣い、規範意識の育成

・気持ちのよい挨拶ができるよう教員、指導員自らが範を示していく。校外活動の場や外部からのお客様に対して、あいさつを率先して行わせることで日常化するよう指導する。また、名前を呼ばれたら「はい」と返事ができるよう、さまざまな場面を通じて指導をする。
・互いに「さん」をつけて呼び合い、誰に対してもいやな気持ちにならない言葉遣いで話すよう指導する。特に、相手をおとしめるような発言や場の雰囲気を壊すような発言については、個別に指導する。
・基本的な生活習慣の定着を図るとともに、社会規範・ルールを守る態度の育成を行う。当番活動で個々の責任を果たすようにする。遊び道具の片付け、食事後の後始末、トイレのスリッパの整理整頓、清掃活動、授業や活動の始まりの時間を守るなど、みんなで使うものや場所、時間の意識を高める指導を行う。

③集団としての関わりの中で目標をもたせ「なりたい自分」を目指して「かつやく」させる。

・集団生活や多様な人々、地域の人々などとの交流を通して、自分とは違うものを受け入れる寛容性、思いやりの心や感謝する心などの社会性、他者意識が身に付くようにする。
・クラブ活動や委員会活動、寮長を始めとした寮の自治活動、体験入学の受入れ活動等を充実させ、役割意識を高め、リーダーの育成を図るとともに何事も自分事として取り組むようにする。
・２４時間過ごす異学年の男女全員が友達であり、仲間であるという意識を高める。Hyper-QUを活用し、一人一人の学級での満足度を把握する。さらに、○年○組の一員、○寮の一員といった学校や寄宿舎での所属感と存在感がもてるようにし、集団としての自覚を高める。

④文化や芸術、自然体験や校内環境の充実

・音楽や図工作品の発表・展示や専門家を招いたコンサートなどを行い、豊かな情操を育む。
・校内の音（校内放送、ＢＧＭなど）や色（掲示物の色調など）、香り（トイレなどの校内のにおい）などの環境を整え、癒やしの効果を図る。
・読書週間や読書集会、寄宿舎での夕読みや読み聞かせ等の読書活動を充実させ、本に親しむ生活習慣づくりを通して、豊かな情操を育む。
・海水浴や磯学習、寄宿舎での歩こう会、浜遊びなどの自然体験を通して、自然を愛し、美しいものに感動できる豊かな感性を育む。
・寄宿舎で季節ごとの日本の伝統的な行事を行うことにより、日本の伝統文化の尊重と日本や郷土を愛する心を育む。

◇確かな学力の定着（知）

①「板橋区　授業スタンダード」に基づいた問題解決的な授業展開と授業革新

・学習内容が分かり、できるようになる授業を行う。分かり、できるようにすることで、学びから逃げない児童を育てる。
・各教科等の指導に当たり、単元全体の中で児童が考える場面と教師が教える場面を計画的に設定し、見通しをもったバランスのよい単元構成を作成し指導する。１単元の展開例として、単元のめあてを設定する→学習の見通しをもつ→集めた資料から自分の中で思考する→友達との話し合いの中で思考を広げ、深める→自分の中でもう一度思考し、判断する（意思決定）→発表相手に応じた発表手段をとって発表する→単元の振り返りをすることが挙げられる。

・日常の授業において、「板橋区　授業スタンダード」に基づいた問題解決的な学習を行う。授業の導入部分では、児童に対し、学習に興味や関心をもたせ学びを価値付けためあてをはっきりもたせる。展開の部分では、学習過程を視覚的に示す。自力解決と協働解決が効果的にできるよう個やグループに応じた支援を行うとともに活動時間を確保する。ペアやトリオ学習のような対話的な学び合いにより自己の考えを広げ、深めさせる主体的対話的な学習を行う。授業の終盤では、振り返りを行い、めあてにどれだけ近づいたか、授業で学んだことは何か、次の課題は何か等を明らかにする。学んだことの意義や自己の成長が実感できるようにする。さらに、字数を決めてまとめを書かせることで、深い学びにつなげる。授業を通して、児童が互いに学び合い、課題を解決する力、表現力、思考力、判断力を身に付けていくようにするとともに、学ぶ楽しさを味わわせる。
・ＩＣＴ機器を「ドリル機能を活用し、前学年に立ち返っての学び直しをすることや現学年での繰り返しを行うことで基礎的基本的な知識技能の習熟をすること」「友達と話し合ったことをまとめたり、自分の思いや考えを相手に分かるように視覚的に論理的に伝えたりすること」「書字や計算など個々の不得意な分野を補うこと」等に活用する。
・国語科を中心として教科書に出てくる言葉の意味がつかめるように語彙を増やす。学校や寄宿舎での生活の場では、教員や寄宿舎指導員が、意識的に言葉の意味やイメージを教えたり、言い換えをしたりする。授業の中では、言葉と言葉や言葉と図を結びつけたり、文をまとめたりする活動を増やす。さらに、語彙を増やすことで読み解く力が増すようにする。

②教科担任制を導入し、教材研究を深め、児童の関心・意欲・満足感に応える授業を行う。

③少人数である環境を生かし、個に応じた指導を行う
・学力調査や授業を通した児童の見取りにより、児童の学力の実態を把握する。児童の学力の実態に応じた教材を効果的に活用する。特に、朝学習や寄宿舎での自習時間の指導においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
・少人数学級の利点と専科教員・非常勤教員・学力向上専門員などの人的環境を生かした個別指導を工夫する。学力向上専門員と連携し、前学年に立ち返った指導を必要な児童に行う。
・ＩＣＴを使った振り返り学習（ｅライブラリ、ドリルパーク）を学校、寄宿舎とも効果的に実施する。

④学習習慣の定着を図る
・学力向上担当を中心に、宿題の内容や取り組み方、評価方法を工夫し、児童が意欲をもって取り組めるようにする。併せて学校と寄宿舎の連携を推進していく。
・学校、寄宿舎と連携して学習習慣を定着させる。特に寄宿舎については、自習時間を生活リズムの中に定着させる。学校においては、朝学習の時間に個別自習学習に取り組む態度も育てる。
・寄宿舎の平日の自習時間においては、舎監が担当児童を自習室で個別指導し、寄宿舎指導員が寮の児童を部屋で個別指導するように分担して、指導を行う。
・寄宿舎の自習時間においては、学校、寄宿舎が連携し、児童に合った教材を使うことで、個別自習学習に対する抵抗感を低くする。児童一人一人が学ぶ意欲を高め、着実に学力を付けていくようにする。

⑤その他
・各種研修やＯＪＴを通じ、教員の指導力の向上を図る。発問・板書・ノート指導・ＩＣＴの活用・教材研究等の指導技術が向上するよう教員自らが課題意識をもって日々研修をする。

## ◇健康・体力づくりの充実（体）

①規則正しい生活リズムを通した指導
・寄宿舎における規則正しい生活習慣が日常的に行えるようにする。さらに、体育の授業、体育的行事、特別活動、自立活動、休み時間の遊び、寄宿舎での１キロ走、自由時間の運動、朝の自立活動などを通して、体力の向上を図り、病弱を解消して心身ともにたくましい児童を育てる。
・自分の運動量や体力向上、その他健康課題の改善を見える化し、児童の励みになるようにする。
・帰京期間においても天津の生活習慣が続くよう、各種カードを活用して指導する。さらに、保護者会を使って、保護者への啓発を図る。

②自立活動の充実
・自立活動の重点を「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」に置く。学校の自立の時間と寄宿舎の自立の時間が効果的につながるようにする。
・一人一人の個別指導計画を作成し、自立活動との関連をさらに図り、計画的・継続的な指導

を行う。
・「天津っ子」「サン」「なかよし」「チャレンジ」「運動」のそれぞれの自立活動の意義や目標を児童に理解させることにより、主体的に健康回復と改善を行おうとする意欲と態度を養う。
③食育指導や保健指導の充実
・食育指導においては、栄養士とも連携して指導を行う。偏食改善カードを工夫し、改善状況を見える化することで自分の成長を自覚できるようにする。また、教員、寄宿舎指導員が、食事の時間に児童に目標をもたせて個別に指導することで、偏食や少食が改善できるようにする。
・保健指導においては、養護教諭、看護師や医療とも連携して指導を行う。計測結果を見える化したり、ピークフロー値を記録したりすることで、自分の成長を自覚できるようにさせる。
・健康改善のための治療を自分から意識して受けられるように、看護師や寄宿舎指導員、教員が連携して指導する。

◇研究推進
・児童主体の学びを推進する。話し合い活動を通して、自分たちで問題を解決し、目標を達成する喜びを味わう。
・自己理解を深めるとともに他者意識を高める。多様な人々を肯定的に受け入れる。
・教員、寄宿舎指導員が協働して研究を進められる体制を作る。分科会には、双方の立場の者が所属しているようにする。
・平成２８～３０年の３年間、「子どもの健康づくり事業」研究推進校として、株式会社タニタと連携した本校の教育活動「天津ライフスタイル」を今後も継承し、発展させていく。

◇防災・環境整備
・本校の「危機管理マニュアル」をもとに、特に、学校の立地上、津波からの避難を重点化し、非常に大きな地震が発生した時の的確な避難行動について、日頃より確認するとともに、様々な避難ケースに対する思考力、判断力を高める。
・校内外の清掃、掲示物の工夫、教材の整備、花壇等の植物の管理を日常から行い、清潔で、落ち着いた学習環境を整える。

◇家庭・地域との連携
・学校・学年便り、保護者会等を活用して、保護者に対して、経営方針や教育内容及びその成果等を説明し、理解と協力を得られるようにするとともに、その評価を学校改善に生かしていく。
・遠隔地にいる保護者のために、学校が発信するホームページの内容をより充実させていく。
・学校紹介ＤＶＤ、代表児童による「天津大使」を活用して、本校のよさを外部へＰＲしていく。

◇小・中連携
・児童の前籍校とともに、近隣の天津小湊小学校、安房東中学校との交流を図り、児童の成長過程を考えた連携教育を推進する。特にキャリア教育の一環として安房東中学校と連携していく。
・前籍校訪問など、地域の学校とのつながりを大切にして、中１ギャップの解消を図っていく。

◇服務事故防止の徹底
・事務処理について、正確に迅速に行う。その日のことはその日のうちに確実に取り組み、処理をする。
・教育公務員としての自覚をもち、人権感覚を高め、特に、体罰、不適切な指導、児童や他者へのわいせつ・セクハラ等、その言動には十分留意し、指導を徹底する。交通事故防止に努める。
・個人情報の管理については、健康状況や成績処理等を含めて管理を徹底する。
・私費会計、給食事務等の会計事務は複数名で行い、管理の徹底を図る。

６-2 寄宿舎経営の基本方針
(1)子どもにとって癒しと楽しさがある寄宿舎
両親・兄弟・姉妹などの家族から離れて生活する児童にとって、寄宿舎生活の楽しさが天津での生活の支えとなる。月行事、年間行事を工夫し、生活に変化と潤いを与えることが喜びや意欲につながり、目標達成の自立心の育成や豊かな人間性を育てることになる。特に、「生活マイスター」等の取り組みを推進し、自己肯定感や所属感を高め、そのよさを全体に広げる活動をしていく。また、児童の心の扉を開き、それぞれの持ち味を生かすことができるよう育むためには、親代わりの寄宿舎指導員の働きは、非常に大きい。そのために、寄宿

舎指導員一人一人が児童を温かく包み込むような指導力を身に付ける不断の研修を大切にしていく。

人権尊重の精神に基づき、あらゆる人権侵害の行為を許さず、いじめ・体罰などがない寄宿舎づくりを推進する。

⑵ **子どもにとって安全な寄宿舎**

保護者は、天津わかしお学校は健康の回復に効果があり、しかも、極めて安全な場所であると信じている。教育公務員としての自覚をもち、人権感覚を高め、体罰、不適切な指導、児童や他者へのわいせつ・セクハラ等、その言動には十分留意し、指導を徹底する。校外活動では、交通事故防止に努める。

寄宿舎の安全を常に保ち、維持するために施設・設備の点検を全員の目で定期的に行い、必要な措置は迅速に行う。

また、児童には、自分の安全は自分で守る気持ちを育成するための避難訓練を行う。危険に対して自らの身を守る力を育て、安全確保のための指導を定期的に行うことが、保護者の信頼を得ることになる。

⑶ **子どもにとって基本的な生活習慣が身に付く寄宿舎**

自らの健康を回復するためには、起床から就寝まで、児童自身が規則や約束を守る自立的行動が必要である。そのために、児童の実態をよく見極め、継続的な指導と支援を行うことが大切である。児童がよりよい寄宿舎生活を築いていけるよう、児童の話し合いを生かして、生活の振り返りや約束の見直しなどを図っていく。

また、児童が寄宿舎にいるときは、寄宿舎指導員は努めて児童と一緒にいて、指導・助言にあたることを基本姿勢とする。規則や約束は必要最低限とし、児童一人一人の気持ちや行動を大事にすることが、寄宿舎の目標を達成することになる。 個々の児童の課題については、受容と共感を土台とする教育相談的な手法を大切にして、複数の職員の目で状況を把握し、適切な対応に心がける。

⑷ **子どもの健康・生活状況が常に把握されている寄宿舎**

寄宿舎は、ぜん息・肥満・偏食・虚弱等の健康上の課題、身体的特質をもち、また、それぞれに個別の生活習慣をもつ児童の集団生活の場である。状況把握と異常の早期発見・早期対処の適切さが常に求められる。そのために、２名の主任寄宿舎指導員を中心に寄宿舎指導員間の連絡を密にするとともに、看護師、養護教諭との組織的な情報連携や行動連携が大切になる。特に、寄宿舎指導員は児童と共に過ごし、必要なときに必要な指導ができる姿勢を不断のものとする。

また、心の健康状態も十分に把握し、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー、学級担任等と連携し、一人一人の児童や寮の児童集団にとって望ましい環境づくりに努め、引き続き、不登校「０」（ゼロ）を目指していく。

さらに、平成２８～３０年の３年間、「子どもの健康づくり事業」研究推進校として、株式会社タニタと連携し、本校の教育活動「天津ライフスタイル」を継続し、発展させていく。

⑸ **身近な環境を生かした運営に努める寄宿舎**

草花・野菜の栽培、浜辺での採集、貝殻や木の実での工作、訪問・交流、ボランティアなど、多彩な体験活動を取り入れ、潤いと変化のある寄宿舎生活を送らせる。

海の浜や山野を活用した諸行事を取り入れ、自然や季節の移ろいへの関心を高めると同時に、ゆとりと充実感のある生活を目指す。特に、地域散策「歩こう会」の取り組みを充実させていく。

地域の諸行事等に積極的に参加し、地域社会との交流を密にして、地域の人々に感謝すると共に、豊かな人間関係を培う。

⑹ **寄宿舎における運営委員の任務とその役割**

寄宿舎指導員１２名から運営委員となる２名をおく。その２名は、校長が任命する。

運営委員は、各月の運営委員会に出席し、寄宿舎に関する資料や情報を提供するなど、校長の学校経営に協力する。

主任寄宿舎指導員は、寄宿舎指導員の職務に関する事項について、他の指導員と共に企画立案し、必要に応じて指導・助言を行う。

運営委員は、学校と寄宿舎同一の教育目標（健康な子　体力、学力、自信をつける）の達成に向けて寄宿舎指導員の中心となり、寄宿舎運営を円滑に行うために校長・副校長・教務主幹・生活指導主任や寄宿舎担当との連携を密にする。